

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員 田中政司

実施月日	令和6年 11月25日(月)		
実施時間	午前10時～12時		
調査先	農林水産省 農村振興局及び農産局		
調査所在	東京都千代田区永田町2-1-1(議員会館会議室)		
調査の目的	中山間地における基盤整備の在り方と茶をめぐる情勢の調査研究の為		
調査先担当者	農林水産省農村振興局 地域振興課 深澤 慎紀氏 地域整備課 川住 亮太氏、星 智裕氏 農林水産省農産局 茶樹・茶グループ 河合 智之氏		
内容・結果等	【内容】 農林水産省の農村振興局の担当者の方からは、中山間地域等直接支払交付金の令和7年度予算に対する新たな取り組みなどを伺った。それによれば7年度より加算処置としてネットワーク化加算及びスマート農業加算などのメニューがある。また、中山間地域の特色を生かした営農を確立するため、農業生産を支える水路や圃場等の農業生産基盤と生産・販売施設等の一体的な整備推進を行うための中山間地域農村総合整備事業について説明を受けた。次に農産局の茶の担当者からは、現在の茶の情勢について茶産地の現状や輸出茶の現状、有機栽培茶の取り組みなどについて説明を受けた。 【まとめ・感想】 現在、嬉野市のみならず全国の茶産地においては生産費の高騰や価格の低迷、茶消費の低迷などの要因により厳しい生産状況の中、後継者不足や生産者の高齢化により栽培面積が減少し、荒廃茶園が増加傾向である。そのような中、緑茶の輸出においては健康志向や日本食への関心の高まり等を背景に抹茶を含む粉末茶の需要が拡大し、令和5年度では292億円と過去最高額となった。その輸出茶においては、米国と台湾で全体の全体の6割を占めており、米国は粉末茶、台湾はリーフ茶が主となっている。 今後のうれしの茶を考えれば、緑茶の荒茶生産量が全国で生産される1%程度しかない茶産地としては、鹿児島や静岡などの大規模産地と同じ取り組みを行う事より、品評会等でのブランド力を高め、うれしの茶の新たな商品開発や産地ならではの魅力の発信を行い、消費拡大に向けた独自の取り組みを行わなければと感じた。 また、荒廃茶園や今後の農地計画等をふまえ、集団的な茶園の基盤整備(公共事業)を若手茶業経営者等により行う事で、有機栽培のうれしの茶生産や碾茶製造等の可能性も探るべきではと思われる。		
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 (円)
	旅費・宿泊費	祐徳旅行	79,660
		合 計	

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。
会議や研修等の資料についても整理保管すること